平成30年度【社会福祉法人泉学園】事業報告

上半期現況報告の中でもふれさせて頂いたが、今年度は豪雨災害を始め自然災害に見舞われることが多く、私たち泉学園各事業所にとっても改めて災害への備えが急を要するものとして痛感した年であった。

障害福祉施策の面では新たに日中サービス支援型共同生活援助や就労定着支援事業、自立生活援助事業等新たなサービスが提案されたこと、放課後デイ、計画相談支援事業、就労継続支援等の報酬単価や制度面の見直しなど私どもの事業運営に何らかの関係や検討を迫られる変更もあった。概ねは昨年度と大きな変わりのない報酬体系であり、当法人にとっては、経営改善に向けた努力を引き続き迫られる状況に変わりのない年度であった。

前回の理事会、評議員会でも報告させて頂いたが、この３月、赤磐市と重症心身の方を主な対象とした障害者支援事業実施の覚書を交わした。赤磐市石相地区の保育園跡地を利用した生活介護、短期入所、グループホームの整備、相談支援事業等４事業の実施を約するものである。赤磐市として大きな期待を頂いているもので、次年度の施設整備補助金をお願いすべく岡山県と協議に入る予定としている。

一方、新年度に向けた福祉人材確保にはかなり苦慮した。人材の獲得に非常に難しい状況が続いた一年であった。人口減少が続く中、社会全体にわたる人手不足状況があって、新卒者の応募がかつてない程少なく、年度途中の求人に際しても応募が中々ないといった状況が続いた。確保に向け議論も幾たびか行ったが、魅力ある障害者福祉の実践、意欲ある職員集団の存在がそうした厳しい中にあっても人材確保に繋がるものと改めて思いながら臨んでいる。

Ⅰ．当年度法人運営の重点に沿っての振返り

① 法人制度改革に沿った体制の進展を図る

制度改革に則った運営体制の整備を進めて２年が経過した。理事会、評議員会、監事監査等各関係者のご協力を得て順調に運営されてきたように考える。昨年、永年、当法人の発展にご尽力頂いた林理事がお亡くなりになった。心からご冥福をお祈りすると共に、一層、法人事業の確かな歩みができる体制作りに向け、理事の選任を進めていきたいと考えている。法人制度改革の中で地域公益的な活動の義務付けも謳われている。従来の取り組みから中々域をでないまま一年が経過した。新５か年計画の作成もまだできずにいるが、その検討と合わせて具体化を図っていく必要がある。

② 魅力ある福祉事業の創出

ご家族、ご利用者の高齢化や重度化の中で、在宅生活支援が一層ニーズとして浮かび上がった一年であった。宿泊支援付きグループホームも利用希望が相次いである。併設の短期入所にあっては利用者がきれない状況があるといっても過言ではない。近い将来、新たなハード面の整備が必要に迫られるように思う。地域生活支援拠点事業も制度として徐々に浸透していく中で利用ニーズが増えつつあるようである。相談支援事業、居宅介護事業等、在宅生活を支援する上では重要な事業でありその役割を担ってきたが、中々そのニーズに追いつかない現状に悩む一年であった。

③ 将来を考える人材の確保

福祉人材フェアへの参加、ホームページの更新、リクナビの利用、学校訪問、職場見学会の開催等リクルート活動をしっかり行うことで人材の確保に努めてきた。新卒の確保は進まず、結果には繋がらなかった。結局、女性２名の採用にとどまり、職安や人材紹介会社を通しての採用で新年度の人材の確保を何とか図ってきた。

職員研修については、従来同様、法人研修はもとより、事業所ごとに出張研修や内部研修を実施し、スキルの向上に努めてきた。又、医療的ケアを要する方の支援に必要な人材の確保を図るべく、喀痰吸引の資格を生活支援員にもお願いし、日々の看護師業務を補うべく支援体制の充実を進めてきた。

④ 法人経営基盤の強化

厳しい法人経営全体にあって、各事業所の利用率アップを図ることで事業所によっては若干改善の兆しが伺えるものもあった。デイセンターなずな、泉学園共同生活援助、パンフルート、相談支援事業等は業務の報酬体系上もあって相変わらず難しい運営状況の中にある。引き続き経営努力を重ねる必要がある。非正規

職員の割合を多くするといったことも業務によっては必要かもしれない。

Ⅱ．事業の具体的な実施について

地域生活拠支援点事業の実施

昨年度後期からお受けした地域生活支援拠点の事業も徐々に浸透してきている感がある。昨年度 96 件の緊急時相談をお受けしている。24 時間 365 日においても対応できる体制はスタッフにおいてはかなりの負担を伴うものであるが、岡山市南区の多くの障害者（児）の緊急事態を支える重要な役割を担ってきている。

グループホーム併設短期入所事業の実施

夜間支援付きＧＨ男女各１棟に各１名の定員で実施してきているが、そのニーズの高さがより顕著な一年であった。男性については特にほぼ空くことがない利用となっている。グループホームの 60 名近い利用者への支援と共に、短期入所の支援で在宅生活を支えることに奔走した一年だったと思われる。そのニーズの高さに改めて新たな建物整備が求められていることを痛感する。

職員確保と法人研修の実施

上述しているように平成 30 年度は３回にわたり採用試験を実施した。新卒者は２名の確保にとどまった。不足の現状があり、職安を中心に求人を出し、職員の繋がりや、人材紹介会社を頼った中、各事業所とも年度スタートに間に合う人員の確保は何とかできた。新年度はより早い採用時期への取り組みを考えている。

法人研修については上半期現況告以降（10 月以降）次のとおり実施した。

・新任職員フォローアップ研修・・平成 30 年 11 月 10 日（土）
　グループ討議『私たちが抱いた理想や夢・現実　～実現に向けて』
　先輩職員からのメッセージ

・上級職員研修　　・・平成 30 年 12 月 5 日（水）
　『地域が泉学園に求めていること』～南相談　管理者　村上　眞　氏
　グループ討議

・役職者研修　　・・平成 31 年 1 月 23 日（水）
　『人材育成について』～泉学園ＧＨ　サービス管理責任者　河本　章宏　氏
　グループ討議

・中堅職員研修（2 回目）　　・・平成 31 年 2 月 20 日（水）
　『重度障害者（自閉症）支援について』～現場で取り組んできた支援の報告
　アドバイザー　社会福祉法人旭川荘わかくさ学園　園長　新谷　義和　氏

・新採用職員研修　　・・平成 31 年 3 月 23 日（土）
　法人の沿革、就業規則、服務等
　ドキュメント、生涯被告『おっちゃん裁判』600 円が奪った 19 年の鑑賞、解説
　『泉学園が伝え続けるもの』～泉学園理事　福田　博明　氏

・法人内事業所現任研修（交流研修）
　参加は３名（希望は他３名あったが日程調整が付かず）、若干低調な感があった。

待遇改善に向けた取り組み

平成 30 年度はその前年 11 月から実施している加算Ｉを申請する中で、待遇改善を図ってきた。昇給額加算や月々給与に上乗せする給与特別加算、役職者や有資格者への資格等加算、夜勤手当に上乗せする夜勤手当加算等昨年と変わらず。また、従来同様、加算制度が対象としている職種以外の職員にも週 20 時間以上の職員すべてに、それに準じた待遇改善を図ってきた。あわせてキャリアパス要件、研修や環境要件も加算受給要件に沿うようその整備を図ってきた。

各種委員会活動

今年度も各委員会とも定例的な会議を持ちながら具体的に取り組みを進めてきた。

・研修委員会　～ 上記のとおり対象別に研修を実施

・尊厳と権利推進委員会～今年度は虐待防止マニュアルの作成に向けた取り組みを進めてきたがまとめるま

でには至らず。

・地域交流委員会～南ふれあいセンターと岡山市手を繋ぐ育成会と当法人の 3 者共催での初めての企画～『共生おかやま南ふれあいフェスタ』を計画していたが 7 月豪雨災害で中止となり、本年 7 月 7 日（日）に企画を再検討する中で予定されている。

・福利厚生委員会～事業所を越えて職員間の親睦を図るべく、今期も年４回実施。懇親会やボウリング大会、レクリエーション大会等を行った。それぞれ 30～40 人規模の参加を得て楽しい時間を過ごした。

・『泉だより』編集委員会～昨年９月１日に 36 号、今年３月１日に 37 号、それぞれ泉だよりを発行した。発行部数 1200 部

・バザー委員会～
各事業所にまたがる情報の交換、出店の調整等。新年度は委員会機能が一定その役割をはたしたとして廃止することとし、窓口機能としての存続とした。

・リクルート活動WG（事務局付け）～今年度も県社協主催の就職フェアへの参加、福祉関連学校へのアプローチ、ホームページへの掲載、リクナビの活用、職場見学会の開催など企画し実施した。具体的な成果には中々繋がらない現状であった。

補助金による車両の整備等

桑野フレンドリーハウス～共同募金による日産キャラバン車両整備 2,658,000　（内補助金 1,000,000 円）

Ⅲ. 今年度法人役員会等

理　事　会

平成 30 年　6 月　5 日・・平成 29 年度法人並びに各事業所事業報告（案）、決算報告（案）、監事監査報告、経理規程、運営規程の一部変更等

平成 30 年 11 月 13 日・・平成 30 年度法人並びに各事業所現況報告（案）、補正予算（案）
公印取扱規程の変更（案）各事業所運営規程の変更（案）等

平成 31 年 3 月 18 日・・職務執行状況の報告、平成 30 年度補正予算（案）、平成 31 年度法人、各事業所事業計画(案)、当初予算（案）、各事業所運営規程の変更、岡山市指導監査の報告等

定時評議委員会

平成 30 年　6 月 20 日・・平成 29 年度法人並びに各事業所事業報告（案）、決算報告（案）、監事監査報告等

平成 30 年 11 月 21 日・・平成 30 年度法人並びに各事業所現況報告（案）、補正予算（案）

平成 31 年　3 月 26 日・・平成 30 年度補正予算（案）、平成 31 年度法人並びに各事業所事業計画（案）、当初予算（案）

Ⅳ. その他

◇岡山市実地指導

・平成 30 年 8 月 29 日・・・デイセンターなずな瀬戸
（主な指摘事項）
日中一時支援勤務者の明確化、スペースや支援の区分を明確に 1.7 対 1 の配置加算に該当しない月の存在

・平成 31 年 3 月 20 日　ネイチャーファーム
（主な指摘事項）
賃金向上達成指導員達成配置が時期によって加算要件を満たしていない月の存在

◇岡山市指導監査

・平成 31 年 1 月 23 日・・・泉の園
文書指摘事項なし

平成30年度【泉の園】事業報告

はじめに

平成３０年度は７月の西日本豪雨をはじめ、台風の影響による風水害や地震等の自然災害が相次いで起きた一年であった。泉の園でも過去には風水害による浸水等があり、今後も風水害や地震、津波等様々な災害リスクを想定して備えておく必要がある。これまで非常災害対策計画の策定、食料品・物品の備蓄等を行ってきたが、内容の定期的な見直しや避難確保、業務継続に関する計画の策定等課題を整理して災害対策を進めていきたい。

活動や行事等については今年度の事業計画に沿って大きな変わりはなく取り組むことができた。昨年度は2月にインフルエンザB型の集団発生があったが、今年度は利用者で罹患された方はおられず無事に流行時期を乗り切ることができた。全体的にはお元気な方が多く入院、通院件数は昨年度より減少しているが、骨折等の怪我による通院、入院を伴う事故件数は昨年並みであり、健康面、安全面への配慮を徹底して事故を減らしていきたい。

新たな取り組みとして今年度介護技術スキルアップ委員会と地域交流委員会を設けた。介護技術スキルアップ委員会は高齢化、重度化対策として対応方法の検討や職員の介護力アップを図るための職員研修の実施等を行った。地域交流委員会はこれまで各部署でそれぞれ行っていた地域交流に関する取り組みを一元化したもので、地域との交流窓口として行事やボランティアの受け入れ等を行った。

1　利用者状況

障害支援区分	6－39名　5－18名　4－3名　平均障害支援区分5．6
在　籍　数	生活介護－60名（平成30年4月1日より定員を55名→60名に変更） 施設入所支援－46名
平均利用率	生活介護－93．5%　施設入所支援－96．0%　短期入所－37．4%
平 均 年 齢	生活介護－42．8歳（通所者－29．8歳）　施設入所支援－46．8歳

2　グループ活動領域

シリウス①	（11名）	（ウォーキング、ストレッチ、ドライブ、ミュージックタイム、スヌーズレン等） ・プレミアムフライデー（自動販売機利用）を7月、11月に行った。
シリウス②	（11名）	（散策、ストレッチ、ドライブ、空き缶回収、ミュージックタイム、スヌーズレン等） ・プレミアムフライデー（自動販売機利用）を8月、1月に行った。 ※シリウス①、②共通 ・ストレッチは個々に応じたメニューを取り入れて拘縮予防や機能低下防止に努めた。 ・ビー玉落としや型はめパズル、プレートビーズ、ペグ刺し、ボール投げ等各自の 好みや興味に応じて行う個別活動にも取り組んだ。
アリエス	（15名）	（個別活動（刺子、プレートビーズ、パズル、ビーズ通し等）、箱折、ウォーキング等） ・個別活動では複数の題材の中から各自がしたい題材を選び取り組んでもらった。 ・レクリエーション（ハンカチ落とし、紙芝居等）や運動、創作、散策、スヌーズレン等の活動も取り入れていった。 ・プレミアムフライデー（自動販売機利用）を9月、2月に行った。
コンパス	（13名）	（空き缶回収・プレス、資源回収・納品、ミュージックタイム、ウォーキング等） ・地域に出掛けて行き空き缶回収等の活動を行った。資源回収にも力を入れて取 り組んだ。

・雨天時や気温の状況に応じて室内活動（個別活動（プレートビーズ、ペグ刺し、知育教材、サンプルブック仕分け等）、紙芝居、創作活動、スヌーズレン等）を行った。
・プレミアムフライデ-（自動販売機利用）を5月、10月に行った。

オリオン　（10名）　（花壇の整備、野菜作り、サンプルブック仕分け、ウォーキング等）
・野菜作り（サツマイモ、ジャガイモ、大根、ブロッコリー、胡瓜、茄子）は野菜の成長を観察し、収穫、販売まで行った。
・雨天時や気温の状況に応じて室内活動（サンプルブック仕分け、紙芝居、スヌーズレン等）を行った。
・コンパスグループと協力して空き缶回収を分担したり、空き缶プレスを活動に取り入れた。
・プレミアムフライデ-（自動販売機利用）を6月、10月に行った。

・今年度もグループ毎に順番で月１回金曜日に外出する「プレミアムフライデー」を継続していった。外出するグループは外出先で自動販売機利用を行い、楽しみながら公共の場でのマナー等を学ぶ機会とした。在園グループはDVD等を用いて防災に関する学習会をしたり、グループ対抗で玉入れ等を行い楽しく体を動かす機会とした。

3　自治会領域

代　議　員　利用者の代表として6名のメンバーが様々な役割に意欲的に取り組まれていた。
代議員会　木曜日（15:30～16:00）－行事の計画や立案、掲示物作成等を行った。
ホームルーム　月曜日午前－代議員が皆の意見を聞いたり、行事についてのお知らせ、代議員会の報告等を行った。
行　事　誕生会（毎月第4水曜日）を企画し実施した。その他おやつ作り（6月）、花火大会（7月）、団子作り（9月）、泉まつりジュース販売（10月）、焼き芋大会（11月）、おしるこ作り（1月）、ひな祭・自治会総会（3月）等の行事を行った。
当番活動　ペットボトルキャップの回収・納品を行った。
アンケート　利用者アンケート～暮らしの満足度～2月・3月に行った。

4　余暇・文化領域

活動予定作成　月計画・週計画・土・日・祝祭日及び長期特別活動時の余暇計画を作成した。
買い物　日曜日－園周辺の徒歩外出、自動車外出（天満屋ハピータウン、イトウゴフク、エディオン岡南店、フタバ図書等）を行った。
クラブ　金曜日午後－お茶、絵画、運動等の活動を行った。
行　事　花見（4月）、母の日の手紙・端午の節句（5月）、父の日の手紙（6月）、七夕（7月）、納涼行事・DVD上映会（8月）、ボウリング招待・ハロウィンパーテイー（11月）、浦安小学校作品展・餅つき大会・年賀状作り（12月）、書き初め・とんど焼き（1月）、節分・バレンタイン（2月）、ホワイトデー（3月）
※その他カレンダー作り、壁面飾り作成等を行った。
ビューティータイム　女性利用者を対象として、身だしなみ・ネイルケアを月１回実施した。

5　生活領域

基本的生活習慣の支援－障害特性、加齢等の状況を考慮し、利用者の個別支援指針を作成して職員間の共通認識とした。

生活班講座－利用者を対象に歯磨き（5月）、夏バテ対策・熱中症予防（7月）、感染症予防（11月）、コミュニケー
ション（2月）の学習会を行った。
リラクゼーションタイム－ADL の向上や楽しみながら体を動かすことを目的とし、タオルを使用して背中や腕を伸
ばすストレッチやヨガのポーズを取り入れたストレッチ、ボールを使用したマッサージ等を月１回実施した。

6　保健・看護領域
通院件数－972件（昨年度987件）、訪問歯科件数－281件（昨年度300件）
入院日数－利用者4名86日（昨年度利用者3名134日）
健康診断－年2回（7月、3月）実施、がん検診受診（40名）、検便－年2回実施
インフルエンザワクチン接種－11月（56名）
褥瘡対策－エアーマットの購入を行った。

7　給食委員会
年4回、管理栄養士を中心に関連職種職員や給食委託業者の栄養士等で給食内容等の検討を行った。
献立は管理栄養士と給食委託業者の栄養士等が毎月原案を元に話し合いを行って作成した。
食事形態
刻み無し－38名
刻み有り－22名（一口大（主菜、芋類のみ2cm）－4名、一口大（2cm）－5名、荒刻み（1cm）－6名、
極刻み（5mm）－6名、極刻み（1mm とろみ付き）－1名）
その他にも利用者の状況（肥満、アレルギー、消化不良、摂食不良）に応じて主食の形態変更（全粥、マンナンラ
イス、麺の刻み）やご飯の計量、アレルギー食材の除去、代替食等の個別対応を行った（個別対応が必要な方が
年々増えている）。
リクエストメニューは6月、11月、2月に実施した。
インフルエンザ対策として11月～3月の平日は牛乳をR-1ヨーグルトに変更して提供した。
栄養健康状態の維持、向上を図ることを目的に栄養マネジメントを継続し、個々に栄養ケア計画を作成して栄養
に関するケアとマネジメントを行った（入所利用者対象）。－高リスク3名、中リスク16名、低リスク27名。

8　防災委員会
避難訓練－5月、6月、7月、10月（2回）、11月、3月に実施した（夜間・夜間想定、風水害、地震・津波の訓練含
む）。内1回は岡山南消防署と合同で訓練を行った（11月29日）。
救急法学習会－「心肺蘇生法」の学習会を実施した（2月8日、職員16名参加）。

9　人権擁護委員会
職員に虐待防止チェックリスト等を使ったアンケートを年5回実施し、人権擁護（虐待防止）に対する意識の向上を図った。
実習生にもアンケートを行い、外部からの視点で意見をもらうことで職員の気づきに繋げていった。
人権擁護（虐待防止）に関し、全職種の職員が参加する学習会を6月と2月に実施した。

10　地域交流委員会
地域交流行事の企画・実施－泉まつり、お飾りづくり

地域行事への参加－ノウフク野外マルシェ、浦安ふれあい夏祭り
ボランティア受け入れ－行事を中心に約40名（昨年度45名）、その他ギターコンサート、ハンドベルアンサンブル演奏会、余暇支援等のボランティア受け入れを行った。
町内会加入－浦安本町町内会賛助会員として廃品回収への協力や懇親忘年会への参加をさせていただいた。
近隣施設との交流－浦安荘地域交流委員会の会議に参加させていただき情報交換を行った。

11 介護技術スキルアップ委員会

作業療法士の方を招いて体位変換や移乗の方法等を教えて頂き、その内容を基に学習会を実施した。
KGU（介護技術アップ）通信を発行し、ボディメカニクスの基本やヒートショック防止等について啓発していった。
ヒートショック防止策として浴室に温度計を設置した。

12 苦情解決委員会

苦情解決及びリスクマネジメント等に関する取り組みを行った。

ヒヤリハット	投薬関係－6件（昨年度10件）、離園及び所在確認ミス－10件（昨年度11件）、転倒－8件（昨年度18件）、利用者間のトラブル及び粗暴行為－8件（昨年度13件）、その他－22件（昨年度16件）
事故	投薬関係－32件（昨年度34件）、離園－3件（昨年度8件）、転倒－13件（昨年度17件）、利用者間のトラブル及び粗暴行為－11件（昨年度11件）、その他－25件（昨年度28件） ※内、通院・入院を伴う事故－8件（昨年度8件）
苦情	0件（昨年度2件）

13 会議研修委員会

各領域、委員会、係における方針、中間、総括会議、個別検討会議等の全体会議の開催や運営方法の検討、施
設内研修（学習会）の実施等を行った。
協力歯科医療機関による学習会－「口腔ケア」について（10月26日、職員12名参加）。
嘱託医による学習会－「知的障害者に対する薬物治療」について（10月19日、職員16名参加）。

14 施設外研修

4 月	接遇セミナー／接遇リーダー研修会
5 月	接遇リーダー研修会
6 月	社会保険委員研修会／安全運転管理者講習／福祉人材確保支援セミナー
7 月	全国知的障害関係施設長等会議／災害時BCP策定研修 岡山県相談支援従事者初任者研修
8 月	岡山県経営協セミナー／岡山県相談支援従事者初任者研修 大規模災害対策セミナー／岡山県特定給食施設関係者研修会
9 月	スッキリわかる社会保険制度説明会／社会福祉法人研修会 県福祉協会サマーセミナー
10月	リスクマネジメント研修／公正採用選考人権啓発推進員研修会 給食施設従事者研修会
11月	年末調整・消費税の軽減税率制度等説明会
12月	働き方改革推進に係る法令改正等説明会／手をつなぐ育成会岡山県大会
1 月	県福祉協会職員研修会
2 月	集団指導／福祉避難所に関する研修

※その他経験年数、職責等の対象別に実施された法人内研修に参加した。

15 行事

障害者スポーツ大会、木下サーカス招待、浦安ふれあい夏祭り、泉まつり、レクリエーションフェスティバル、クリスマス忘年会、お飾りづくり、社会体験旅行、長寿祝賀会

16 施設実習

県下大学・短大・専門学校より20名（昨年度19名）、年間84日（昨年度76日）の受け入れを行った。

17 短期入所及び日中一時支援

短期入所－延べ利用者数409名（昨年度180名）、日中一時支援－延べ利用者数260名（昨年度244名）の受
け入れを行った。

18 多目的ホールの貸出

泉の園家族会（4月、5月、7月、9月、11月、12月）、親子クラブ（10月）

19 福祉避難所

福祉避難所として西日本豪雨で被災された北区の男性１名の受け入れを行った。（７月１７～２５日）

20 西日本豪雨被災地救援ボランティア（県福祉協会）

7～9月にかけて10日間延べ11名（職員10名、職員の家族1名）を被災地救援ボランティアとして西日本豪雨の
被災地（真備町）に派遣した。

21 施設等整備

２人部屋に仕切りカーテンの設置を行った。
冬場居住棟から食堂棟への行き来が寒いため、渡り廊下西側に風よけテントを設置した。
火災保険について地震にも対応する保険に随時変更した。

22. 指導監査

平成30年度社会福祉施設指導監査－1月23日
＜口頭指摘事項＞
調理従事者の日々の健康チェックは、委託業者からの口頭報告だけでなく、記録を確認すること。

平成30年度【ネイチャーファーム】事業報告

はじめに

報酬改定からスタートした平成30年度は6年ごとの事業所指定更新手続きや岡山市の実地指導等が行われ、継続して行ってきた事業活動を改めて見直すことができ、次年度に向けた課題を整理する良い機会となった。就労支援事業においては、昨年度より継続して提出している経営改善計画に沿って収支の改善を図ることを目標に日々努力してきた。その成果が数字として表れ、指定基準を満たす見通しを持つことができる実りある一年であった。

1．運営について

管理運営、支援体制の状況

職員配置　7.5：1

今年度も各工房共に就労支援事業により利用者への賃金支払いを行う事業所として日々の売り上げ目標や将来を見据えた取り組みを継続した。

花工房では昨年度気候等の影響により生産が安定せず支出増の状況であったため、今年度は経営改善計画に沿って生産計画や育成方法の見直し等を行った。その結果良い成果として反映され、各イベントでの売り上げが伸びたこともあり、過去最高の売り上げを達成して収支の改善を図ることができた。

パン工房では競争市場に影響され年間売り上げは減少しているものの、生産コストの削減や販売ロスの細かな見直し等により支出を減らすことができ、昨年度同様経営改善目標を達成することができた。

3月に行われた実地指導により賃金向上達成指導員として配置されている職員を変更することとした。またパン工房の職業指導員（パート職員）から家庭の事情と高齢を理由に退職の希望が出ていることと、花工房の業務状況から現在各工房1名ずつ求人（パート）を出しているところである。

2．利用者の状況について

定員20名　現員20名

花工房　　6名（男）5名（女）1名（うち男性1名は定年後の再雇用の為一年ごとの契約）

パン工房14名（男）9名（女）5名（うち女性2名は短時間契約者）

花工房では定年後の再雇用をしている利用者に体調を考慮した勤務や活動をしてもらったり、精神的に悩みの多い利用者には継続した話し合いを行って家庭や医療機関とも連携し無理のない活動をしてもらう等の配慮を行った。突発的な無断欠勤についても個別に対応しているが、男性利用者1名については9月上旬から2度に渡り長期に無断欠勤され、本人の意向により3月に退職されている。そのため現員が年度当初の7名から1名減って6名となっている。

パン工房では無断欠勤への対応や健康、生活面での悩み、金銭の管理等に関する個別の支援を家族や関連事業所の職員等と連携して行った。

3．就労支援事業の内容

花工房

花苗・野菜の育成栽培、ハウス（作業場内店舗）での販売、法人内事業所での委託販売、バザー委託販売、岡山市指定配布（年4回）、市場出荷、生産者・業者への卸、学校・地域・各種団体からの受注、イベント出展（年間約25イベント参加）、仕入れ業、植栽の請負、下請け作業（米育苗箱の洗浄）、学校・地域を対象とした野菜収穫体験の受け入れ等を行った。

今年度は新たに岡山駅前広場ノウフク野外マルシェへの参加、玉野興南高校の花壇植栽の請負作業を手掛けた。

パン工房

製パン・製菓（焼き菓子等）の製造、店舗販売、バザー委託販売、病院・施設・学校売店への卸・委託販売、イベント出店、学校・地域・各種団体からの受注、学校バザー委託販売、小学生対象のパン教室（社協主催）、移動販売、企業PB商品の卸等を行った。

新たな販売先として規模は小さいものの受注による販売で売店2店（博愛会在宅支援センター、精神科医療センター）が加わった。

4．支援内容

職業指導

花工房では報連相の徹底と作業の効率化、商品管理への意識向上や作業技術の支援を継続した。

パン工房では職業指導員（パート職員）の退職を想定して、利用者個々に新たな作業題材の提供と技術支援を行った。技術の習得に向けて頑張る利用者の姿は他の利用者へ良い影響を与えている。

生活支援

両工房共に個別支援計画に沿って健康や精神面でのケア等個々に必要とされる支援を行った。今年度は利用者を主体として作業や生活面に関する話し合いを各工房で行うことができ、自主的な行動や発言が見られている。また各利用者の生活環境に携わる家族や関係者との連携により様々なケースの問題解決をその都度行った。

5．施設等整備について

花工房では土中の水路パイプ破損修理、ボイラーファン故障による修繕を行った。

パン工房では老朽化によりプレハブ冷蔵・冷凍庫、製氷機の買い替えを行った。

6．勤務計画について

花工房では繁忙期、閑散期に応じて流動的に勤務を作成した。

パン工房では各々の通勤手段、作業能力、技術を考慮したローテーション勤務を作成し、必要であれば勤務の変更を本人、家族の同意のもとに行った。

7．防災関連

避難訓練を4回実施した（火災2回、風水害1回、地震1回）。

8．リスク管理

ヒヤリハット、事故報告の徹底を心掛け記入を呼びかけた。また商品へのクレーム、問い合わせにも対応した。今年度は課題であった事故原因や対策を考えて再発防止に繋げることができる作業現場の事故報告書の作成を行い、その都度記入することで意識の向上を図った。パン工房では衛生管理の徹底により異物による苦情が減少傾向にある。

9．保健看護

健康診断（年1回）、インフルエンザワクチン接種、ストレスチェックを実施した。

１０.自治会

利用者主体での会議を定期的に行い、アンケート等も取り入れ、両工房共に年2回の食事会（外食）を行った。また花工房では目標としていた2回目の東京への宿泊旅行を実施し良い交流ができた。

１１.苦情処理

今年度苦情はなかった。

１２.家族会活動

5月の総会を含む年7回の定例会議の他、花工房で年8回（延べ22名）、パン工房で年6回（延べ34名）作業ボランティアをしていただいた。また法人内の他事業所家族会との合同親睦家族会に職員も参加させていただき良い交流の機会となった。

１３.地域活動

隣接地域小学校夏休みパン作り教室の開催、近隣保育所・幼稚園お散歩見学の受け入れ等を行った。

１４.実地指導

平成30年度指定障害福祉サービス事業所等の実施指導－3月20日

＜文書指示指導事項＞

⑴ 当該事業所が立地する地域の自然条件等を踏まえ、想定される非常災害の種類ごとに、その規模及び被害の程度に応じた非常災害への対応に関する具体的計画を策定するとともに、非常災害時の関係機関への通報及び関係者との連絡の体制を整備し、それらの内容を定期的に従業者に周知すること。

⑵ 事業所の平面図に変更があったときは10日以内に市長に届け出ること。（相談室→相談室兼事務室）

⑶ 賃金向上達成指導員配置加算算定に当たって、賃金向上達成指導員が常勤換算で1以上配置されていない月については、自主点検の上、過誤調整をすること。

平成30年度【桑野通所事業所】事業報告

【桑野フレンドリーハウス(生活介護)】

はじめに

支援の柱

○１人ひとりに合った個別的支援を行ないます。

○自己決定を尊重した支援を行ないます。

○地域社会の中で暮らす為の支援を行ないます。

この支援の柱は、毎日の朝礼中に職員全員が唱和しています。

日中活動のサービス提供が中心となりますが、支援の柱を中心に一人ひとりを尊重した活動に心がけています。利用される方の一人ひとりが楽しく活動に参加する事、その思いや気持ちを尊重したサービスの提供に心がけました。また、自己決定に添える事が出来るように心がけて支援をしました。

同じ活動で見通しの持てる方、新しい物を喜ばれる方、個別の思いを大切にしながら、そこから活動の充実を図っています。

利用される方、一人ひとりが期待を持って通所され、満足感を抱いて帰宅される事が大切と考えています。

支援者は、そうした期待に応えるべく、日々の実践の中で新たなサービスの提供を作り出し、利用される方たちの期待に応えられるように努めました。

支援の柱の１つに地域生活支援があります。地域での生活をいかに支援していくかが大きな課題です。夜間支援体制付きのグループホームが２棟(ゆたか・ひばり)(こかげ・つぼみ)が開設され、当事業所より多くの利用者が利用を始めましたが、ＧＨとの連携もスムーズとなりました。しかし、在宅の方の中にはご両親の高齢などの事由により次のライフステージを準備する事が必要な方が増えています。

終の棲家を見つける時期に来ている方が出てきています。生まれ育った家庭が終の棲家となる方ばかりではなく、世代の変化と共に別の場所を終の棲家としなければならない方の比重が多いものと思われます。現在、気になっている方が数名おられますが、その一人ひとりが豊かな生活(人生)を過ごせるよう支援してきました。今後も地域生活の充実を視野に入れた支援を継続していきます。

１．利用者状況

定員40名、契約者49名（昨年度51名）6月に１名他の事業所へ異動し、49名となる。

GH利用者は11名　　前年度の利用量　11,469人

２．利用状況

平日利用率　89.98%　　土曜利用率　55.59%　　利用率　85.8%(前年度97.2%)

平成30年度延利用者数　11,155名　(昨年度 11,469名)　【 －３.８％ 】

平均支援区分：5.10（昨年度:5.06）　　（平成30年3月31日現在）

※前年度より平均支援区分が5.0を超えた為、支援体制を2.5⇒2.0への変更を検討しましたが、費用対効果を勘案し、先送りにしました。

	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	計
利用量	939	969	946	960	988	852	998	958	895	897	848	923	11,155

区分６	区分５	区分４	区分３	計
18	18	12	1	49

３．活動支援

Ａ．午前活動について

前年度同様に４つのグループに分けて支援しました。朝礼・終礼の場でもあります。

①花(女性 12 名)

女性だけのグループ。午前中の主な活動内容としては、ビーズ細工や毛糸を使ったマスコット人形の作成を行ないました。

②鳥(男性 13 名)

男性だけのグループ。午前中の主な活動としては、インテリア素材のカタログのサンプルはがしをしました。

③風(15 名 / 男性８名・女性７名)

体調管理を中心とした医療面での支援を大切にしているグループ。

午前中は、主にペットボトルの再生作業を中心に行ないました。ビーズ通し等の課題に挑戦された方もいました。看護師を常に配置しました。

④月(10 名 / 男性５名・女性５名)

主に動きの激しい方やこだわりの強い方を中心に編成しました。

一部の方はペットボトルの再生に関わりました。１対１での対応が必要な方が２名所属されています。

※４つのグループで協力をして、散策・歩行・機能訓練・作業等を実施しています。

B．午後活動について

活動のメニューを週単位で決定してサービスの提供をしました。

その人が興味の持てるもの、落ち着いて参加できるもの、笑顔がみられるもの等、個別支援計画に基づいて活動を提供しました。

主な内容としては、カラオケ・散策・リトミック・創作・音楽・アロマテラピー・センターの情報コーナーでの読書、お化粧やネイル・女子会・男子会等も継続して取り組みました。

新たなメニューとして陶芸や大きなスクリーンにプロジェクターで映像を映し出してシアターの雰囲気を作り出した活動を試しに取り組みました。スヌーズレンの効果の演出も試みました。利用者の方達には好評でした。

また、毎回の創作活動の作品は、事業所内に展示をしました。2 階のギャラリーで展示は前年同様に１回一週間展示しました。センターのガレリアでも事業所紹介と合わせて作品展示を一週間しました。

４．社会活動

作　業　　サンプルはがし、ペットボトルのラベルはがし、手芸等を主な題材としました。
サンプルはがしもペットボトルのラベルはがしは、とてもシンプルな工程で見通しも立てやすく多くの方が参加できました。働く事をとおして社会とのつながりを実感できる機会となっています。

買　物　　金銭の授受・公共の場のマナー等、買い物の経験をする場を活動の中で設けました。
また、1 日外出で商業施設に行って買物を楽しみました。

講　座　　お茶と踊りの講座を実施しました。ふれあいまつりでのお茶席の開催は会場の都合で出来ませんでした。
敬老会での踊りの発表は好評でした。
※講師の方の確保が課題としてありました。

お掃除ボランティア　地域のゴミ拾い等の清掃活動を地域委員会と共に実施しました。
今年度は、年間 5 回の実績です。(前年度は 7 回)

〈桑野ワークプラザ（就労継続支援Ｂ型）〉

はじめに

工賃として支給した金額で給付費が左右される制度設計になって、なかなか工賃区分を上げる事は難しいと思われました。作業の内容の変更でより多くの収入を獲得する事が望まれていますが、難しい課題でした。反対に健康や精神面等の心のケアが求められる利用者の比重が増える傾向が高くなりつつあります。

提供するサービスの変更等、ご本人やご家族と話し合いを持ちながら、相談支援事業所をからめて今後の方向性を検討する事が必要な方が増えています。

生活介護事業に異動した方が望ましい方もあります。今後もこうした事案が増えてくるものと予想されます。作業や活動をとおして、一人ひとり異なった目標やニーズが果たせるよう、一人ひとりに配慮したサービスの提供をしました。

毎年、課題として上がっている作業班の職員の所属の垣根を外す取り組みは完全な形での実施に至りませんでした。利用される方にとって選択肢が拡がり生き生きと作業に参加する姿が見られる事を期待し、継続していきます。

１．利用者状況

定員 20 名、契約者 22 名（昨年度 23 名）でスタートしました。メンバー全員が岡山市管内です。

障害基礎年金１級受給　12 名　　GH 利用者　12 名

２．利用状況

	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	計
利用量	440	466	456	444	462	415	467	461	418	431	403	431	5,294

平日利用率　94.8%　　土曜利用率　64.8%　　利用率　85.8%（前年度 97.2%）

平成 30 年度延利用者数　5,294 名　（昨年度 5,119 名）　【 ＋３.４８％ 】

３．工賃の支給について

ワークプラザでは、少しでも前年度の工賃を上回り、工賃支給出来るように努力していきました。平成 30 年度の純収益は、1,454,000 円でした。

前年度の平均月支給額 9,067 円の目標金額として設定し、昨年度に引き続き目標を達成しました。平成 30 年度の実績は 9,208 円 でした。前年度より 10,824 円収益が増加しました。

４．作業について

主たる屋内作業としては大和運送からの手帳のシール貼り、大江紙器から段ボール加工、県タオルから箸入れ、サンゲツからサンプルはがし等の下請け作業を行っていきました。新たな取引先の開拓は出来ませんでした。

また、ふれあいセンター清掃管理業務、ふれあいセンター花壇管理業務、食品加工（クッキー製造販売）、出向作業（岡山清掃）、社会就労センターや岡山市社会福祉協議会等の斡旋があれば積極的に受けていきました。

５．行事・活動

四季折々の中で楽しむ事の出来る企画を利用される方の意見を反映させながら実施しました。

具体的には、１日を使っての活動として、花見・調理実習・初詣・ボウリングを企画しました。

また、希望者はフレンドリーハウスと共に講座（お茶、踊り）にも参加しました。

健康や衛生等についての学習会も事業所全体で実施しました。

〈事業所共通の取り組みについて〉

1. 年間行事について

①歳時行事　季節ごとの歳時的行事については、事業所の判断で実施しました。

フレンドリーハウスでは、職員の志向を凝らした準備で利用者の方たちが喜ばれる場面が多くみられました。

ワークプラザについは、七夕と節分のみ行いました。

初詣は、１日行事として各グループにて実施しました。

②一泊社会体験

①神戸　動物王国(２グループで実施)

②呉　大和ミュージアム

③湯郷温泉(日帰り)

③クリスマス忘年会

午前中は、センター小ホールでカラオケ大会をしました。午後からは食堂でゲーム大会を実施しました。たいへん盛況でした。

2. 土曜開所について

土曜開所日は、ボウリングやカラオケ、クッキング、レクリエーション、散策等小グループ活動として実施しました。殊にワークプラザについては事前に活動内容のアンケートをとり、希望に応えていきました。年間 19 日開所しました。可能な限り開所可能日を設定しました。

3. 仲間の会(自治会活動)

代表者会議　定期的に朝礼後に集まり話し合いを持つ機会を設定しました。

グループ会議　第一の金曜日のティータイムの時間に話し合いの場を設定しました。

行　　事　「たんぽぽまつり」の企画・運営を仲間たちのみで開催する事ができるように領域を中心に支援しました。他の行事については、サービスの提供の観点から利用者の方の要望を取り入れながら、職員が提案する形で企画・運営しました。そうした中でも利用者の方が関われる場面では協力していただきました。

当番活動　食堂の掃除当番を全体としての活動として行ないました。
各グループについてもそれぞれのグループ毎に必要な当番活動をしました。

4. 給食提供について

給食委員会を中心に以下の項目について取り組みました。

・個別に食べやすい食器や台等の合ったものの提供しました。
・嗜好調査を実施し、利用者の希望を集約し、調理スタッフと情報を共用しました。
・該当月の利用者に対してバースディメニューとして手作りのデザートを提供しました。
・テーブル拭きや手洗い等、衛生管理に努めました。
・健康面に配慮した特別食については、外注で取り寄せをして提供しました。

※例年通り、㈱魚宗に業務委託しました。調理員３名による２名/１日のローテーションは、緊急の休みにも対応することが出来ました。

5. 健康管理について

生活・保健領域を中心に以下の項目について取り組みました。

①学習会の開催　歯磨き・着替え・熱中症・風邪予防・手洗い・掃除・食器洗い等について学ぶ機会を

設定しました。フレンドリーハウス・ワークプラザで別々に実施しました。

②健康診断　希望者のみ実施しました。
40 歳以上の方には市のがん検診も希望に応じて実施しています。

③口腔衛生　６月に歯科医に依頼して希望者に検診をしていただきました。。

④健康維持　毎月初めに体重測定をしてデータをとっています。

⑤感染症対策　ノロウイルスやインフルエンザが流行する時期には次亜塩素酸ナトリウムでの共用部分の除菌や空中散布を実施しました。多くの感染者を出す事は幸いにもありませんでした。

6. 送迎について

現在約９割の方が利用されています。安全運転に留意して事故のないように努めました。今年度は、共同募金の助成(100 万円)を受けてキャラバン(10 人乗り)の購入をしました。

中型バスを含めて８路線運行しています。

軽四貨物(ミニキャブ)の老朽化に伴い、25 周年を区切りとして家族会より普通貨物(日産バレット)の寄贈を受けました。一番古いキャラバンのクーラーが修理で直らない為廃車にしました。

7. 地域交流について

地域委員会を中心に取り組みました。

・春の桜まつりにて地域の改選後の新しい役員の方と顔合わせをしました。
・年末の百間川クリーン作戦に参加しました。地域委員会の職員のみの参加であり、今後の取り組みについて検討していきます。
・近隣事業所との交流行事として、センター内の高齢者事業所で踊りの披露をしました。
・生活介護事業所「エスポアール桑野」との交流会を初めて持ちました。次年度も継続して実施する予定です。
・地区社協との餅つき会を実施しました。参加者や社協の会員さんからも好評であり継続していきます。
・操明学区の敬老会で踊りを披露しました。
・事業所紹介を１週間プロムナードで行ないました。
・ホームページの更新を定期的に行ないました。
・２階のギャラリーの「ちいさな美術館」に出展しました。創作活動の発表の場として、今後も継続していきます。
・ボランティアは、募集をしても集まらない状況が続いていますが、ふれいまつりでは、久しぶりに 11 名の参加がありました。

8. 虐待防止について

虐待防止委員会を中心に以下のとおり実施しました。

・虐待について研修会を開催しました。各自にチェックシートを配布し、一週間ごとの見返しをしました。
・定期的にチェックシートを基にグループディスカッションを実施しました。
・虐待のない人権に配慮した施設作りに努めました。マニュアルの整備を行ないました。
・利用者に対して満足度調査を実施しました。
　結果については、呼び捨てやあだ名について不快な思いをされている。長い間待たされたと答えられた方も依然として多く、残念な結果になりました。大きな声で注意された、勝手に予定を変更された、話しかけても無視された、と答えられた方も少なからずおられました。昨年度の調査と比較してほとんど改善されていない事が明確となりました。今後の課題として改善を図っていきます。

9. リスク管理について

リスク管理委員会を中心に下記の項目について取り組みました。

・リスク管理の徹底をはかり、苦情・意見への迅速な対応に努めました。
・事業運営上起こり得るリスクを最小限に抑える事について検討をしました。
・自然災害に対しての適切な対応について協議しました。
・様々なリスクについてのマニュアルの作成 / 検証 / 実践を行ないました。
・ヒヤリハット、事故報告書、事故発生届の提出を徹底しました。防止策に至るまで職員間で話し合いを行ないました。
・非常時の備蓄食品を３年計画で整備していきます。(本年度１回目)

ヒヤリハット発生件数

月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	計
F	1	6	3	1	1	2	1	6	3	5	5	2	３６
W	4	4	2	0	0	1	0	0	1	0	0	2	１４
計	5	１０	5	1	1	3	1	6	4	5	5	4	５０

形態別発生件数

形態	事故	他害	所在不明	転倒	盗飲食	ミス	服薬ミス	取り違え	送迎ミス
F	5	１３	5	3	0	3	1	0	9
W	2	5	4	2	0	1	0	1	0

障害の重度化や高齢化、さらには利用者を取り巻く環境や支援のあり方等がヒヤリハットや事故の背景にありますが、職員の意識が事故を未然に防ぐ何よりの手段です。リスクに対しては緊張感をもった職場でありたいと思います。大きな事故としては、視力低下の方が壁に頭をぶつけて通院した(９月)。足首の骨折し、約２ヶ月の入院をした(３月）の２件がありました。

車両事故として３件発生していますが、いずれもぶつけたり擦ったりした軽微なものでした。

現在、中型バスをはじめ計８台で送迎にあたっており、利用される方の安全を第一に考えています。人身事故等の取り返しのつかない事故等を起こさないように注意喚起を常に行ないました。全利用者 71 名の内、送迎をしていない方は９名です。62 名(86%)の方の送迎をしました。

また、苦情・意見は真摯に受け止め、発生した事案については「すばやく」「かくさず」「誠意をもって」対応していくと共に十分に原因を探りその防止に努めていきました。第３者委員や運営適正化委員会等にお世話になる案件はありませんでしたが、苦情に相当する意見も１つありました。

10. 非常災害対策計画

地震やそれから派生する水害等に対しての避難の想定及び対策を「おかやまふれあいセンター事業課」を中心に検討しました。ふれあいセンターは一次避難場所に指定されており、３日程度の食料の備蓄をしていますが、岡山市の備蓄です。一階の旭川荘「くわのみどりの家」では、独自に２日分の食料備蓄をしているとの事でしたので、当事業所においても３年計画で備蓄食の準備はじめました。それとは別に必要な機材についても準備を進めていきます。

事業所内においても情報を共有し、有事に対応出来る組織作りと訓練を実施していく予定でしたが、実施はできていません。『地震防災組織図』を有効に使用出来るように地域との連帯を図っていくことを課題としています。

11. 防犯対策について

津久見やまゆり園で起こった思わぬ事案が発生する事も念頭に入れた訓練や対処法の学習の必要性を感じています。特に当事業所は市民の方の利用が多く、事業所のエリア内にも入って来られる事もよくありま

す。そうした方を排除するのではなく、障害を持った方々が生き生きと活動している場である事のＰＲも大切と思われます。そうした状況の中で不審者を見分け、侵入から利用者を守る体制作りを検討しました。

不審な人物と感じられた場合には、まず、声をかけて相手の反応をみる事で判断する事を徹底しました。リスク委員会にて継続協議し、周知を図っていきます。

12. 自己研鑽の強化と従業者の資質の向上

職員のスキルアップの為に各種の研修に参加しました。

また、個々の目的や希望に基づいた研修についても参加しました。主だったものは下記のとおりでした。

7/1・10/19	強度行動障害支援者研修	２名
11/14・15	福祉協会全国職員研修会	１名
	県社協　介護技術向上研修	１名
	法人内交流研修	１名

事業所内研修ついては、各事業所の目的や専門性に応じた内容の学習会を計画し実施しました。特に虐待防止や発達障害に関すること、利用者の健康や救急法等についても研修を実施しました。

以　上

平成 30 年度【泉学園共同生活援助事業所】事業報告

はじめに

現在の地域生活支援センター北側の窓からのぞむと、北へ一列、二列目の住宅とさくらが福浜紙器の敷地で、一列、二列目の住宅がすっぽり段ボール工場だった。さくらは当時駐車場と倉庫だった。現在の地域生活支援センターは２軒長屋の借家で、平成 7 年 4 月、そこで生活ホームがスタートした。

泉学園もグループホームも平成と共に歩んできた。この 30 年われわれの生活は大きく様変わりし、格段にスピーディーにそして便利になった。しかしながら人と人とのつながりや日常のコミュニケーションは希薄になってしまった。この 30 年間で失われたものも多い。令和は、平成で失われていたものに気づき取り戻せる時代であってほしい。障害者支援こそ、そうした作業のできる絶好の場であり、グループホームへの支援を通し実践していきたい。

支援目標について

①地域において入居者が共同して日常生活が送れるよう、食事の提供、健康管理、その他日常生活の支援を行う。(下線部を次年度は個々の生活を大切にして に変更予定)

②入居者が地域住民として責任と誇りをもって生活できるよう支援を行う。

③入居者が安心、安全に暮らせるよう施設整備や地域との連携を行う。合わせて災害を含めたリスクへの対応策を具体的に講じていく。

④支援においては、地域で暮らす一住民として入居者の意思を尊重し、自己選択、自己決定をそれぞれの生活場面で実践していく。

１．ホームの状況（平成 31 年 3 月 31 日現在）

１）グループホームビーネン　　定員 4 名（現員 4 名）

２）グループホームニュービーネン　定員 4 名（現員 4 名）

３）グループホームはちみつ　　定員 2 名（現員 2 名）

※平成 30 年 5 月 1 日：定員 4→3 名に、7 月 1 日：定員 3→2 名に変更した。

４）グループホーム菜の花　　定員 4 名（現員 3 名）

※平成 31 年 2 月 1 日：現員 4→3 名に変更となった。

５）グループホーム福富Ⅰ　　定員 4 名（現員 4 名）

６）グループホーム福富Ⅱ　　定員 4 名（現員 4 名）

７）グループホーム泉　　定員 4 名（現員 4 名）

８）グループホームみのり　　定員 2 名（現員 2 名）

９）グループホームゆたか　　定員 7 名（現員 7 名）

10）グループホームひばり　　定員 7 名（現員 7 名）

11）グループホームこかげ　　定員 7 名（現員 7 名）

12）グループホームつぼみ　　定員 7 名（現員 7 名）

13）サテライト福富Ⅰ　　定員 1 名（現員 0 名）

※平成 30 年 12 月 1 日：現員 1→0 名に変更となった。

14）サテライトはちみつⅠ　　定員 1 名（現員 1 名）※5 月 1 日開設

15）サテライトひばりⅠ　　定員 1 名（現員 1 名）※7 月 1 日開設

定員 59 名（現員 57 名）

平成 31 年 4 月には、空き部屋がはちみつに 2 部屋（グループホームとして届出を行っておらず)、菜の花に 1 部屋（入居予定者あり）福富Ⅱに 1 部屋、サテライト福富Ⅰに 1 部屋計 5 部屋あり、早い段階の満床をめざしたい。

２．利用者の状況について

5 月 1 日よりサテライトはちみつⅠを開設し男性 1 名が入居した。29 年度末に住人からの苦情でホームからの退去を求められた方が、5 月末でサテライト福富Ⅰを退去した。6 月は市内事業所のフォーマル、インフォーマルのショートステイを使い生活の場をつないだ。7 月よりサテライトひばりⅠを開設し入居、新たな生活を開始した。6 月半ばよりサテライト福富Ⅰへ女性 1 名が入居したが、日中活動が定まらず結局 11 月末日で退去した。菜の花の利用者が 10 月に炎症反応みられ入院となる。(腎盂腎炎、腸腰筋に膿、脚のむくみ）一度退院するが喘息のため再入院する。症状は回復するがアパートでの生活復帰が難しく、ナーシングホームにて短期入所しリハビリを 2 カ月行った。最終的にホームでの生活が困難と見極め、1 月末日でホームを退去し 2 月 1 日より平田旭川荘に入所した。2 月に転倒し骨折、手術した方が、また栄養吸収障害の診断を受けた方がそれぞれ入院治療を行った。福富Ⅱの男性利用者が 3 月末でグループホームを出て新たな生活にチャレンジすることとなった。

３．職員体制について

管理者 1 名（世話人兼務)、サービス管理責任者 4 名（生活支援員兼務)、生活支援員（世話人兼務含む）実人数 12 名（常勤換算 7.3、H30 年度実績見込み)、世話人（生活支援員、夜間支援員兼務含まず）実人数 25 名（常勤換算 13.2、H30 年度実績見込み)、看護師 1 名（パート)、夜間支援員 7 名、事務員（世話人兼務）2 名で支援を行ってきた。6 月より生活支援員 1 名が休職、また世話人が相次いで長期療養したため職員の欠員状態が続いた。そんな中、支援のすきまをつくらず利用者の生活を前に進めた現場職員に感謝したい。

４．利用者支援について

地域であたり前に暮らすことは、まずは職員がホームの入居者を「地域住人」として意識できることである。今年度までは共同での生活を重視した支援目標を立てていた。生活や行事、活動等を集団で行うことのメリットはあるが、デメリットについても総括会議で議論され、次年度は個に焦点をあてた支援を大切にしようと話し合った。

５．苦情・ヒヤリハット・事故等リスクについて

〇苦情について

・不適切な支援を受けていやな気持ちになった。

〇ヒヤリハットについて

転倒、粗暴行為、服薬に関するミス、興奮・パニック、怪我・傷、所在不明、連絡し忘れ、施錠し忘れ、食事に異物、ナースコールに関するミス、魚の骨が喉にかかる、私物の紛失、送迎ミス、連絡帳渡し忘れ等 58 件（昨年度 31 件）

〇事故について

服薬忘れ、重複服薬、怪我・傷（市へ報告 3 件)、落薬、服薬拒否、転倒し頭をうつ、噛まれる、その他の事故として公用車対物事故、椅子の破損、窓ガラスやド

アの破損、ケース記録のデータ紛失（後日復旧）等 32 件（昨年度 28 件）ヒヤリハット、事故共に増加傾向にある。対応策をしっかり周知すると共に職員の意識改革が必要と思われる。特に車の運転には最善の注意を行っていきたい。

６．職員研修について

（内部研修）

・人権擁護、虐待防止について（7 月）
・平成 30 年度報酬改定における主な改定内容について（8 月）
・救命講習会（2 月）

（出張研修）

・全国グループホーム研修会（2 名）（8 月）
・福祉協会サマーセミナー（1 名）（9 月）

７．事業所運営について

今年度より世話人配置を５：１から４：１としたが、世話人の病気や怪我等による不安定な勤務状況が続いた。また募集を行ってもすぐには見つからないことが通常で、生活支援員不足も合わせ職員不足が慢性化した。

８．短期入所事業

グループホームこかげ、つぼみにおいてショートステイの受入れを行ってきたが、特にこかげ（男性）においては常に満床の状態が続いた。特にご家族の高齢化や健康状態、死去等に伴う利用希望が大変多く、今後ショートステイのみでご家族やご本人を支えていくことには必ず限界が来る。ショートステイの先には必ずグループホームが必要となる。（平成 30 年度実績：定員 2 名に対して、年間延べ利用者数 584 名（29 年度：51 名））

９．来期への課題

利用者支援に関しては前回の課題でもあったが、一人ひとり個別の生活を重視した支援を行う予定である。ホームを集団生活の場として認識するのではなく、個別の生活を出発点とし支援にあたっていきたい。活動や行事等も大集団で行うのではなく、小集団ないしは個別対応にしていきたい。

また対人関係の問題や複数での生活が苦手な方も多く、今年度は空いている居室をうまく活用して課題の解決につなげていきたい。また新たな利用希望にも積極的に応えていきたい。

平成 30 年度【岡山南障がい者相談支援センター】事業報告

１．（はじめに）～状況に関して

計画相談支援・障害児相談支援については地域からの要望に応じ、徐々に対応件数を増やしてきた。地域移行支援については、自立支援協議会（地域部会）の枠組みを活用しながら医療機関はじめ連携を密に取り組んだ。一方、個別給付以外の一般的な相談に加え専門的な相談支援の実施や、事業所支援や研修の機会により地域の支援力向上の一助としての取り組みも自立支援協議会を通じながら実施した。また、地域生活支援拠点事業（24 時間対応・地域づくり・人材育成等）に関しても地域ニーズの対応に向けて取り組み、体制の整備や更なる充実に向けて課題を払拭できるようにしていきたい。今年度は障害支援区分認定調査の対応件数が増加する年回りで、昨年度を大幅に上回る対応となり過去最高となった。

２．（管理運営、相談支援体制の状況）

管理者	相談支援専門員	事務員	計
１（兼）	４（兼１）	１（兼）	５

３．（地域に関する取組み）

○岡山市障害者自立支援協議会

・運営に関する会議、各種専門部会やワーキンググループ、地区における事例検討会・課題整理、に参加した。

○岡山県自立支援協議会（人材育成部会）

・人材育成部会への参加、次年度に向けて県として広域に行われる各種研修に関する情報収集やスケジュール等を体系的に示せるようにする。

○相談支援専門員の養成および育成

・岡山県実施の初任者研修（講義、演習）に協力した。今後の新カリキュラム、主任研修に関して検討した。

・市主催の計画相談支援に関する研修の企画運営等に協力した。

○県立支援学校および医療機関等

・連携に係るネットワーク会議やケア会議に参加。

○岡山県障害者相談支援アドバイザー事業

・県下市町村への支援（協議会、地区体制整備支援、困難事例のケース会議等）を実施。

（職員の派遣）

内容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10.月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
市自立支援協議会関係	6	5	5	6	5	6	6	5	5	4	6	5
県アドバイザー事業	2	－	2	1	2	－	2	－	3	1	2	1
機関との会議等	2	1	1	4	11	6	4	2	3	3	7	4
各種研修会等	1	1	1	5	3	2	1	1	2	－	2	1

４．（職員の研修）

開催月	派遣内容	主催	開催地	備考
毎月	市協議会地域部会事例検討会	市協議会	岡山市	
4 月	知福協中国地区施設長会	島根県協会	松江市	
6 月	厚生労働省相談支援従事者指導者養成研修	厚生労働省	所沢市	
6 月	岡山市計画相談支援に関する研修会	岡山市	岡山ふれあい	
6 月	精神障害者地域移行支援連絡会	岡山市	岡山市役所	

開催月	派遣内容	主催	開催地	備考
8月	地域包括支援センター研修会	市地域包括	市民病院	
9月	精神障害者地域移行支援連絡会	岡山市	岡山市役所	
9月	全国知福協グループホーム等研修会	日本知福協	松山市	
9月	岡山市計画相談支援に関する研修会	岡山市	岡山ふれあい	
10月	相談支援セミナー	日本知福協	横浜市	
11月	知的障害関係職員研修会	日本知福協	山口市	
11月	岡山市南区西精神保健福祉連絡会	岡山市	西ふれあい	
11月	医療的ケア児（者）コーディネーター養成研修	岡山県	旭川児童院	
12月	岡山市計画相談支援に関する研修会	岡山市	岡山ふれあい	
12月	障害児相談支援に関する研修会	岡山県	きらめきプラザ	
1月	強度行動障害者支援者養成研修	岡山県	きらめきプラザ	
1月	岡山市南区南精神保健福祉連絡会	岡山市	南ふれあい	
1月	厚生労働省主任相談支援専門員指導者養成研修	厚生労働省	東京都江東区	
2月	セルフマネジメント研修	岡山県	きらめきプラザ	
2月	介護支援専門員協会との合同研修会	専門員協会	県立図書館	
2月	岡山市退院後支援担当者連絡会	岡山市	ピュアリティ	
3月	岡山市計画相談支援に関する研修会	岡山市	岡山ふれあい	

５．（次年度に向けての課題や取組みについて）

障害の種別や年齢にとらわれない相談へ対応する中で、課題が複雑化・重複化しているケースも散見され、整理する力量が求められている。当事者本人だけでなく、ご家族にも高齢・障害・疾患等があり支え手不在による困り事を感じているケースが増えている。また、当事者・家族からの相談だけではなく、地域や事業所からの相談も多く、ベースに経済的な困窮があることで当事者・家族間支援がより複雑化しやすく、当事者や家族が課題に向けて取り組む力の不足につながりやすい。そのため、当事者・ご家族だけに対するアプローチでは解決に向かうことが難しく、生活困窮者支援・権利擁護関係・医療・高齢者支援関係等の連携を密に対応していく必要があった。

全体を通しては、発達障害関係・精神科領域の相談が増加傾向にあるといえる。それぞれのライフステージでの相談に対応が出来るように幅広い知識・技術が求められてきている。引き続き、各関係機関との密接な連携に努める中で、地域の資源や当事者・ご家族の持つ力を可能な限り活用できるような支援を展開していきたいと考えている。

今年度も従来からの地域的課題である計画相談支援および障害児相談支援の対応増を目指して取り組んできた。対応件数増からの質低下を招かないよう引き続き対応できるように努めていきたいと考えている。また、障害のある方たちの地域生活に関して、岡山市や自立支援協議会（地域部会）と共に協議を継続させ、南区内の居住系サービス提供事業所との連携をテーマにした場をもつことができた。引き続き取り組みを般化させるべく、地域連携を具体的なものにするべく進めていきたい。

今年度から相談支援専門員の個別支援をテーマとしたＯＪＴ事業（岡山市）が始まった。３名の相談支援専門員（１人９時間：計２７時間）への支援を実施した。相談支援事業所のもつ課題解決や質の向上を目指して、次年度も市と協議しながら実施できたらと考えている。

地域ニーズは、個別支援ニーズから、地区あるいは市域全体への働きかけを中心とするマクロ的な動きを要するニーズ、またサービスの質向上策や支援者支援など地域をあげてこれらの様々なニーズに応えるべく連携を強化していく、またはそういった取り組みを積み重ねていくことが今後さらに求められてくる。以上のことから、地域の社会資源との結びつきや官民協働で協議をおこないながら体制整備などに向け、地域の声を届ける等の取組みにより障害のある方々、ご家族の方々が安心して生活の見通しが抱ける一助となればと考えている。

平成 30 年度【岡山南障害者地域生活支援センター「パンフルート」】事業報告

1.　はじめに

障害のある方が地域で普通に暮らしていくためには、在宅で必要な支援を受けられる事が前提にあり、日常生活を安心して過ごすには居宅介護事業所は必要不可欠であると考える。

私たちが日常生活で当たり前に行えている衣・食・住の環境が障害を持たれている方にとっては支援がなければ成り立たないケースが多々見受けられる。

又、施設・グループホームを希望しても空きがなく在宅で生活しなければならないケース、逆に終の棲家として在宅を希望されているケースと生活のニーズも様々である。

在宅生活で支援を求められているケースとして、家族全体の支援が必要なケース、同居家族の負担が大きくなっているケース、障害を持たれながらも一人暮しで支援がないと生活が成り立たないケース、社会参加・余暇活動の外出支援が必要なケース等、パンフルートに求められるニーズは多岐にわたっている。

居宅介護員（ヘルパー）は一人で在宅へ訪問し支援する職種であり、利用者個々で必要とされる支援も多様である為、支援者の思い・質が問われる。事業所全体で常にスキルアップを図らなければならない。

2.　職員の状況について

・常勤職員 4 名（1 名グループホーム兼務）、非常勤職員 1 名、登録ヘルパー3 名

3.　苦情、ヒヤリ・ハット、事故等について

ヒヤリ・ハット 6 件。

・通院同行時、タクシー内に保険者証を忘れてしまう。運転者さんがすぐに気付いて下さる。
・移動支援にて食材買い物支援。ヘルパー長期休みの為、代行で予定を立てていたが忘れており利用者より「来ていない。」と連絡あり。1.5 時間遅れにて対応。管理者が本人へ謝罪する。
・朝の送迎（福祉有償運送）を忘れており、20 分遅れにて対応となる。
・追加の朝の送迎（福祉有償運送）を忘れており、1 時間遅れにて対応。後の移動支援も 30 分遅れにて対応となる。
・訪問漏れ。10:00～11:30 の援助予定を忘れており利用者さんからの電話で気付く。謝罪し時間変更にて対応させて頂く。
・行動援護時、着替えの肌着をなくしてしまう。夜、カラオケ店から連絡あり見つかる。

＊　事故・苦情はありませんでした。

4.　経営状況

居宅介護事業（家事援助・身体介護・行動援護）は 1 名増の 33 名。援助時間前年比 255.5 時間増。家事援助の時間数は横ばいだが身体介護・行動援護の時間数が増加している。

同じ時間帯（朝・夕）の新規依頼が多く人員不足でなかなか受ける事が出来ていない状況。既存利用者の収益率の高い夕方以降の身体介護、行動援護の利用者（現在 9 名）のニーズを見直した事で支援時間が増え収益改善に繋がった。

地域支援事業（移動支援）の新規依頼（土・日・祝日がほとんどである）は多いが人員不足で十分に対応し切れていない状況。既存利用者への対応でいっぱいの状況。同じ外出支援の行動援護とも重なる為、支援時間は前年比 287.5 時間減となっている。

福祉有償運送はほぼ毎月数件の依頼・問合せがあるが既存利用者の対応で受けられない状況である。

収益面では前年比約 500 万強の収益改善だが、依然事業所単独での経営は繰入を仰がなければならない状況である。

5. サービス利用状況について

各サービスの利用状況については以下の通りです。

(1)居宅介護事業

(家事援助・身体介護・通院介助・通院等乗降介助・重度訪問介護・行動援護)

稼働契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
33 名	3,889 時間	0 件	0 件

＊昨年度支援時間 3,633.5 時間

・利用者数前年 32 名。利用者数は一名増のみだがニーズを見直し支援時間は 255.5 時間増。

・新規依頼の傾向として朝夕の身体介護、精神障害の家事援助、通院等介助依頼が多い。

(2)移動支援事業

稼働契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
37 名	2,319.5 時間	0 件	0 件

＊昨年度支援時間 2,607 時間

・利用者数前年 33 名。

・37 名中 17 名が法人内グループホームの利用者。在宅生活されている利用者数が増加している。稼働時間は 1 回約 5 時間。

・利用者数は増加しているが、人員不足で十分に対応し切れていない状況の為、支援時間は減少している。

(3)いきいきいずみサービス事業

延べ利用者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
1 名	1 時間	0 件	0 件

＊昨年度支援時間 1 時間

・移動支援・通院等介助等の福祉サービスへ移行し、制度外利用依頼は少ない為、いきいきの利用は減少している。

(4)福祉有償運送事業

稼働契約者数	利用件数	総走行距離	苦情件数	事故件数
11 名	639 件	8,389 ㎞	0 件	0 件

＊昨年度利用件数 638 件　昨年度走行距離 8,364 ㎞　登録者数 73 名

・稼働契約者数は前年と同数。利用内容は法人内への送迎・通院等介助時での利用がメインある。

・福祉有償運送の新規依頼はほぼ毎月数件の依頼はあるが、時間・人員不足の関係で受けられない状況。

6. 今後の課題

地域で障害をもたれながら暮らし、ヘルパー支援を求められている方は多いが、根本的な課題であるヘルパー不足の状況が昨年同様続いている為、パンフルートとして十分な対応が出来ていないのが現状である。地域で生活される方の多様なニーズに応えていく為、又、収益改善を図る為にヘルパーの人員確保・質の向上は必須課題である。

平成 30 年度【障がい者デイセンターさくら】事業報告

今年度は経営安定のために定員変更と、新しく分離して就労継続Ｂ型を立ち上げる予定であったが見送った。依然として経営が困難な状況が続いており、引き続き当事業所の大きな課題である。また、一日社会体験、送迎時間の変更等を通してご家族から貴重なご意見を頂いた。そんな中で、ご利用者・ご家族の置かれている立場を理解し寄り添うことの不十分さを反省した。今後、職員間で話し合いを重ねながら心から皆さんに信頼される事業所として歩まなければと考える。

《生活介護事業》

今年度は、特にご利用者同士気持ちよく過ごせるように環境を整えた。結果、ご利用者間のトラブルも減り笑顔で過ごされる方が増えた。また活動内容では一人ひとりのニーズ把握に努め、希望要望に沿った内容を提供した。結果、ご本人の達成感や充実感に繋がったように思う。

１、定員並びに利用状況

○定員:10 名（変更なし）　　○平均利用率：99.1%

○契約者数：15 名（平成 31 年 3 月 31 日現在）

＊契約解除１名（施設入所）→5 月

＊新規契約２名（就労継続支援Ｂ型より異動）→6 月に１名、12 月に１名

○障害支援区分：平均 5.6（区分６→11 名、区分５→4 人、区分３→１人）

２、職員配置　変更なし（人員配置２：１）

○正規職員　1 名平成 30 年　3 月 15 日～平成 31 年 4 月 30 日お休み（産休、育休）

○パート職員 1 名平成 30 年 11 月 19 日～令和元年 9 月 30 日お休み　（産休、育休）

○パート職員 1 名平成 31 年 2 月 12 日採用

３、主な支援内容

○午前中は個のニーズに沿った活動を提供するための個別活動、午後は仲間とのふれあいを楽しんでいただくための集団活動を取り入れた。

○個別活動（午前）：創作・園芸・羊毛フェルト・ビーズ・パズル・運動・機能訓練他。支援目標に沿って取り組み内容を考えた。また毎年の課題であった運動不足の解消に向けては、“運動表”を導入することで意欲的に運動できるように工夫した。結果積極的に運動に取り組む方が増えた。また小さな花壇を利用しての園芸は、ご利用者の楽しみと地域美化に繋がっている。今年度も採取できた花の種を公民館祭りで無料配布したところ大変好評であった。ご家族に向けてのプレゼント作りも、ご本人の意欲と喜びに繋がった。

○集団活動（午後）：外出・レクリエーション・おやつ作り・クラブ活動・創作他。季節感のある活動を取り入れた。また利用者同士の思いやりを育み、協力を意識した支援を心掛けた。毎週金曜日のクラブ活動は定着し、ご利用者の楽しみの一つになっている。

《就労継続支援Ｂ型》

今年度は、収入増に向けての対策として土曜開所日を月 2 回に増やした。職員数を最

低必要人数に留め、内容を工夫することで何とか整えた。また市場への施設外就労が定着し、大きな収入アップに繋がった。結果、月平均工賃が増え次年度の報酬単価があがった。
利用者支援に関しては、個の特性に応じた環境を整えることで、情緒が安定し穏やかに集中して作業に取り組む方が増えた。

１、定員並びに利用状況
○定員：30 名　　○平均利用率：95.9%
○契約者数：36 名(平成 31 年 3 月 31 日現在)
2 名契約解除（同事業所の生活介護へ異動）→5 月 31 日、11 月 30 日
1 名新規契約→10 月 1 日

２、職員配置　　変更なし（人員配置 7.5：１）
○正規職員 1 名、8 月 31 日退職。
○臨時職員 1 名、9 月 1 日採用～12 月 31 日退職、2 月 1 日再採用～3 月 31 日退職

３、主な作業内容
○スイーツ（食品加工）　収支差：＋86,961 円
→＊収入：3,326,615 円（前年度より 293,897 円減）
＊支出：3,239,654 円(原材料費 1,451,169 円、経費 583,875 円、工賃 1,204,610 円)
今年度は元気の輪より注文が減り収入が下がった。バザー（福浜公民館、岡山理科大学等）が大きな収入源になった。また、今年度は天満屋での販売、岡山県セルプセンター主催のおかしＢＯＸ、宮脇書店でのワークショップ等、新しい取り組みにも積極的に参加した。
○くらふと（製品加工・手芸・施設外就労）　収支差：＋38,436 円
→＊収入：1,740,650 円（前年度より 135,974 円増）
＊支出：1,779,086 円（原材料費 31,655 円、経費 16,276 円、工賃 1,731,155）
島村青果（市場）への施設外就労が定着し大きな収入に繋がった。手芸は縮小しているが、刺し子布巾は年間通じて受注が続いた。軽作業は途絶える日もあったが箸入れ作業でカバーした。
○カフェつみ木　収支差：－474,569 円
→＊収入：9,760,413 円（前年度より 544,922 円減）、
＊支出：10,234,982 円（原材料費 4,160,213 円、経費 834,424 円、工賃 1,542,600 円、職員人件費 3,697,745 円）
一日平均 37,000 円を目指したが僅かに届かなった。今年度は売上向上のため第 2、第 4 土曜日の営業を再開した。8 月は売り上げが 5 万円に達した日もあったが、年間通しては赤字経営になってしまった。

４、利用者工賃
○月平均：10,307 円(前年度 8,910 円)。時給平均：128 円（前年度 107 円）。
つみ木は一律 200 円、くらふとは一律 60 円、スイーツは一律 90 円。但し、くらふととスイーツはリーダー手当を支給。

《多機能型事業所さくらとして》

○地域との交流

＊郵便局・公民館・図書館・スーパー・散策等、意識的にご利用者と共に地域に出向く機会を増やし障がい者理解を広げる努力をした。

＊様々なバザーにご利用者と共に出向くことで、多くの地域住民の方々との交流を図った。

＊地域住民参加型餅つきを 12 月 1 日に実施した。福浜公民館館長・町内会長・子供会会長初め、沢山の地域住民の参加が得られた。

＊福浜公民館祭りに展示と焼き菓子の販売で参加した。ご利用者も一緒に販売することで、地域住民の方々とのふれあいが深まった。

＊高齢者施設うららか（12 月 25 日）とアルファリビング岡山後楽園（3 月 5 日）へ、ボランティアサークルのメンバー（8 人）が慰問に行った。

＊地域美化活動を実施（2 回）。

○ボランティアの受け入れ

＊吉岡先生ギター演奏　＊太鼓演奏（１人）＊夏ボラ（7 人）＊餅つき（24 人）

＊作業ボランティア（2 人）（カフェつみ木→毎日、つくし→随時）

＊外出付き添い（１人）

○全体行事

＊生活介護・就労継続の利用者同士のふれあいを意識しながら計画している。

＊日帰り社会体験（6 月）、クリスマス忘年会（12 月）、成人を祝う会（1 月）。

○土曜開所

＊社会との関わりを意識した内容を取り入れている。

＊生活介護→11 人利用（利用メンバーは固定している）

＊就労継続→平均 15 人利用（毎回、便りを出し希望を取っている）

○健康管理：＊生活介護に 1 名看護師を配置している。

＊定期健康診断（9 月）、インフルエンザ予防接種（11 月）

○給食サービス：＊給食会議を 2 回実施。＊今年度は嗜好調査ができなかった。

○送迎サービス：＊生活介護→15 人　　就労継続→13 人

＊ご利用者・ご家族の希望に沿って時間差送迎の対応を実施。

＊年度途中で 16：00 発送りを 15：45 発に 15 分早めた。

○車両事故（5 件）：損傷（5）　　○事故（9 件）：転倒（7）、切り傷（2）

○ヒヤリハット（13 件）：転倒（2）、送迎忘れ（5）、鍵を探す（２）、他（4）

平成30年度【デイセンターなずな】事業報告

年度初めの4月、週1日利用の支援学校卒業生2名をお迎えした。1.7：1以上の人員配置を保ちつつ、求人も獲得難の状況があり下半期は病欠者も1名あったので、時に瀬戸職員の応援を頼んだり、時に送迎でご家庭に無理をお願いしたりした。福祉職を目指す人の減少傾向は続いており、人による支援を頼みにしている福祉の現場においては本当に厳しい状況であると痛感した。

30年度中に入院された方3名、ショートステイや体調による欠席の他、車両関係やご家族の体調による欠席もあり、迎えに行く等、出来る限りの対応を図った。今後も出来ること、出来ないことが数多く出てくるであろうが、出来得る可能な限りの対応に今後も努めたい。また、昨年は県内でも豪雨による災害が甚大で、当事業所でも職員の被災があった。事業所自体には被害は無かったものの、様々な災害時の各ご家庭における避難、事業所が近隣の方々の避難場所となる想定での備えや設備等、新たな課題も挙がった一年であった。

１．平成30年度事業の概要（年度末現在）

【定　　員】　25名（契約者数　49名）
・新規契約者2名
・契約終了者1名（介護保険移行）

【障害支援区分】　区分6（46名）、区分5（2名）、区分4（1名）～平均支援区分5.9

【年　齢　別】　10代（2名）20代（32名）30代（10名）40代（3名）50代（1名）60代（1名）

【住　所　地】　岡山市（39名）、赤磐市（6名）、備前市（3名）、瀬戸内市（1名）

【職員配置等】　管理者（1名）、サービス管理責任者（1名）、サービス管理副責任者（1名）
生活支援員（常勤2名、非常勤7名）、看護師（常勤1名、非常勤2名）
作業療法士（非常勤2名）、事務員（非常勤1名）、嘱託医（非常勤1名）
家政員（非常勤1名）、送迎職員（非常勤1名）

２．実施事業の内容

1）　健康管理と医療

◇　医療的ケア他医療の面では看護師2名（曜日により3名）体制としている。また、注入や喀痰吸引のできる支援者増を図ってはいるがなかなか進まず。

◇　ご家庭との引継ぎや日々のバイタルチェック、顔色や動作等で気になる体調は必ず記録、引継ぎし必要に応じて看護師に指示を仰いだり適宜対処しており大きな問題は無かった。

◇　健康面におけるヒヤリハットの同じ様な内容のものが続き、報・連・相が十分にできていないと思われることもあり、個別や全体で話し合い検証している。

◇　インフルエンザやノロウイルス等の流行時も、幸い事業所内では職員含め罹患者も出ず、換気や加湿、消毒等に努めたことも良かったことと思われ、継続していく必要を感じた。

◇　ＡＥＤを使った心肺蘇生訓練、誤嚥や嘔吐時の緊急時対応訓練等を年に1,2回実施している。いざという時に、誰もがすぐに動けるよう今後もしっかりと訓練を重ねていきたい。

2)　日中生活、日中活動支援

◇　日中活動では音楽やレクリエーション、散策や調理活動や季節ごとの創作等に取り組み、日中生活上の中心として取り組み楽しんで頂いている。また、外出や機能訓練的取り組み、趣味を生かした活動なども個別の活動として取り入れている。

◇　昼食以降の午後の活動時間が制約気味であるが、リラックスタイムでの個々の利用者の方の楽しみや喜びはなんであろうか、と話し合い、それを意識して働きかけ、様々に関わることでまた少し充実した時間へと繋がっていきつつあるように思われる。

3)　入浴

◇　これまでを踏襲し、毎日午前・午後と入浴を行なった。現利用者の方々はもとより、利用希望の方も必ずと言って良いほどのニーズである。入浴予定の方のキャンセル待ち、といったことでの対応をさせて頂いていた。

4)　送迎

◇　年度末頃に送迎要員を１名確保することができた。送迎他給油や洗車等、適宜対応をお願いした。

◇　送迎中の運転ミスによる車両損傷はあるものの、大きな事故は無く送迎ができた。

◇　該当者はいないが、運転の仕方やマナーについて一般の方からお叱りを頂くことがあった。全体で周知を図り注意喚起した。

5)　行事等

秋のなずなまつりは２回目となり、多くの近隣の方々や学生ボランティアに来て頂いた。また餅つきではご家族にご協力を仰ぐ等、ご家族や地域の方々にも加わって頂くことで、一事業所行事というだけでは無く、更に楽しみやわくわく感の増す取り組みになったのではないだろうか。今後も積極的に呼び掛けていき繋がりを広めていきたい。平成 30 年度は成人を迎えられる方が居られず、開所以来初めて新成人を祝う会が持てない年度であった。

6)　土曜開所

ご希望にそい、月に２回、１回平均 15 名余りの方に利用頂いた。これまで利用頂いている方々に加えご希望の方は増えつつあるので、今後もご本人やご家族のニーズに合わせ、応えていける取り組みとしたい。

３．ボランティア・実習生等の受け入れ

◇　ボランティア

様々な形でボランティアの方に来て頂くように、夏ボラ（1 名）や実習に来られた学生を中心に声をかけてなずなまつりに来て頂いた。その後の継続した繋がりは持てていないが、今後も声掛け、呼びかけは積極的に行いたい。

◇　実習生の受け入れ

支援学校の実習生は昨年度５名であった。3 年生は 2 名共卒業後に利用下さっており、良い体験、経験の場となっているように思われる。また、介護等体験実習も前後期合わせて 13 名を受け入れた。様々な面において良い刺激となっていると思われ、積極的な受け入れを今後も継続する。

４．　事故、ヒヤリ・ハット及び苦情やご意見等について

◇　医療機関にかかり市に事故報告したもの　～1 件

ご本人をおぶっていて、急に後ろに反り返り畳に転落。CT も異常無く、1 回のみの通院であった。

◇　ヒヤリ・ハット　～35 件

・外傷・打ち身（のおそれ含む）10 件～利用者同士の接触、ご本人の動きによる等

・車両関係 9 件～

損傷、サイドブレーキかけ忘れ、縁石乗り上げ、マンホール蓋破壊、後部ドア閉め忘れ等

・酸素ボンベ交換や開栓忘れ 3 件　・転倒（のおそれ）2 件　・自走や這って手足が赤くなる 2 件

・その他各 1 件～装具装着不備、躓いて呼吸器ホース外れる、誤ってトイレに異物が入ってしまう、支援者の言葉かけが気になる、服薬の錠剤を落とす、領収書入れ間違い、活動物品紛失、送迎時の車椅子忘れ、手を伸ばして体重計を倒す。

全て全員に回覧して周知を図り、同じことを繰り返すことの無いよう努めている。

平成 30 年度【デイセンターなずな瀬戸】事業報告

昨年度、新規の利用者の方の受入れはなくスタートし、11 月より長く利用されていた方が体調面、家庭の事情により長期の入院から入所へとなっている。また、一昨年、軽い脳梗塞となった方、筋ジストロフィーの方についても体調面により不安定な利用が続いている。
2 月より新規で瀬戸町在住の一人暮らしの方の受け入れを行っている。
昨年 1 月に単独の事業所定員 20 名のデイセンターなずな瀬戸として再スタートした。利用状況は定員の 8 割弱となっている。利用者の定期的なショート利用、体調面でお休みとなる方が多いことも利用の低迷に繋がっている。安定した経営、運営へ向け新規利用者の受け入れ等の努力が必要である。
赤磐市への事業移転が決定している。早くても再来年度の話であるが、これからの人材の確保、育成等の準備が必要であり、場所が遠くなることでの不安も聞かれる中、送迎サービスの充実やなずな玉柏との連携も必要になってくると思われる。将来的にはショートステイ事業、グループホーム事業の開始もあり、家族の方の期待が大きい面もあるが、まずは生活介護事業のスムーズな移行を念頭に進めていきたいと思う。

１．事業の概要

・定員・契約者数	20 名・28 名
・障害支援区分	区分 6（26 名）　区分 5（1 名）　区分 3（1 名）
・利用者年齢	10 代（1 名）　20 代（18 名）　30 代（9 名）
・利用者所在地	岡山市（18 名）　赤磐市（5 名）　瀬戸内市（3 名） 備前市（2 名）
・職員配置等	管理者・サービス管理責任者（兼務 1 名） 副管理者（相談管理者兼務 1 名） 生活支援員（常勤 7 名、非常勤 3 名） 看護師（常勤 1 名、非常勤 1 名）、作業療法士（非常勤 1 名） 事務員（兼務 1 名）、嘱託医（非常勤 1 名）、 配膳等職員（非常勤 2 名）

２．実施事業の内容

①健康管理・医療面

・医療面は看護師 2 名を中心に臨んでいる。増加していく医療ケアが必要な方への対応として、生活支援員 1 名が喀痰吸引実施研修を受け修了している。
・日々のバイタルチェック、様子観察を行い利用者の方の体調管理に努めている。
・1 名の方が体調面により検査入院となり、気管切開、胃ろう造設手術をされ入所となられた。他利用者の方については大きな体調面での変化はなく通所されている。今後も利用者の方が年齢を重ねていく中で、体調面の観察を密に行い、利用者の方の元気に生活できるよう支援していくことが必要である。

②日中生活、日中活動支援

・日中活動は主に音楽、レクリエーション、スポーツ、創作、調理、感覚・機能訓練を中心に取り組んでいる。また、個々の希望に応じて作業、生産活動も行なっている。
・食事介助、排泄介助等日常生活支援に要する時間が多くなる中、活動支援の時

間が減少してきた現状であるが、スタッフの工夫等で利用者の方へ満足してもらえるよう支援を行っている。昨年は地域交流へ目を向けた活動として、利用者の方と赤い羽根街頭募金の活動に参加したり、夏祭り等の行事においては近隣の中高生のボランティア参加を積極的に呼びかけ、多くの方に参加頂いた。小グループでの外食も適宜行った。

③入浴

・入浴サービスに対するニーズは高いが、週 3 日の入浴支援では手一杯の状況があった。新年度は月曜日の午前に入浴サービスを開始している。

④送迎

・車両数や支援者数に限度があるが可能な限りの送迎を行っている。送迎時間の見直し等で新たなニーズにも応えてきたが、希望には添えきれないでいる。

⑤行事等

・七夕会やクリスマス会等の季節行事を中心に取り組んでいる。毎年夏に行うサマーフェスティバルでは、近隣の中学校、高校にボランティアを要請し 30 名弱の参加がみられた。利用者の方にとっても普段とは違った雰囲気や関わりを楽しまれたように感じている。新年度も引き続き行う予定である。

・秋の一日社会体験では、渋川水族館、ホテルでのグルメコース、西大寺緑化公園へのゆったりコースと、分けて実施してきた。

3．ボランティアの方・実習生の受け入れ

①ボランティア

・新規ボランティアでは、音楽療法士の方が来て下さり、ねらいを持った音楽を通じての活動にスタッフも勉強となった。今後も定期的に来て下さるようお願いしたいと考えている。

・以前より来ていただいている方についても、引き続き定期的に来て下さっており感謝している。

②実習生の受け入れ

・支援学校の実習生については、3 名の方の実習を受け、新年度には 1 名の方を受け入れ、週 2 日の利用が始まっている。2 名の方については今年度 3 年生となり、実習の希望もあり卒業後の利用を念頭におかれている。

・瀬戸高等支援学校の介護等体験実習も 1 年生、3 年生を中心に定期的な受け入れを行ってきた。

4．事故、ヒヤリ・ハット及び苦情やご意見等について

・事故→市に事故報告を行ったもの 3 件

①椅子からの転落　②杖歩行の方の転倒　③転倒により後頭部を打つ

・いずれも大きな事故へは繋がらなかったが、今後、同様の過ちを起こさないよう努めていく。

・事故→18 件

・転倒・転落～6 件　　・外傷～9 件

・車両の破損～2 件　　・車イスの破損～1 件

・ヒヤリ・ハット→21 件

・転倒・転落のおそれ～3 件　・個人情報～2 件　・体調面の報告不足～1 件

・薬の出し忘れ～2 件　　・利用者同士の接触のおそれ～1 件

・誤飲のおそれ～2 件　・車イスの操作ミス～1 件　　・怠薬～6 件

・一人でエレベーターを使用～3 件

平成 30 度【瀬戸障がい者相談支援事業所】事業報告

私ども瀬戸障がい者相談支援事業所がお受けしている計画相談件数は児童含め 3 月時点で 163 件となっており昨年より 20 件ほど増えている。一方、生活相談や必要な福祉サービス探し、障害年金受給に向けた支援、各種手帳等申請、医療機関や行政等関係機関とのやり取り等、基本相談への対応を求められるケースも徐々に増えつつある。個々に生起する課題へのケア会議、退院、退所に向けた会議、卒業後に向けた移行支援会議等各種会議への参加や主催、また、必要な手続きや訪問、相談といった計画相談に伴う通常の業務等に追われる日々が続いている。

相談にみえられる方は何らかの生活上の困りごとや生き辛さを抱えておられる。じっくり、しっかりの寄り添いのある相談、課題や困難を解決できる適切な支援と情報の提供、私たちに求められるものは大きい。出会ってよかった、担当頂いてよかったといわれる相談支援専門員に、今後も一層研鑽と経験を積んでいく必要を痛感する。

以下、事業項目ごとに平成 30 年度の実績をまとめ報告とする

１）平成 30 年度瀬戸障がい者相談支援事業所の体制
管理者（デイセンターなずな瀬戸副管理者兼務）
相談支援専門員常勤２名（専従）　　事務員１名（兼務）

２）主な具体的業務
サービス利用計画の作成、モニタリング、その他一般的な相談及び支援にかかる相談業務、それに伴う関連機関や事業所訪問及び調整会議やケア会議への出席。各機関との連絡調整、卒業に向けた移行支援会議。地域定着支援が 1 件。研修会や勉強会への出席等、特に赤磐市関連の研修等が増える。認定調査員としての業務もあり。

３）地域との関わりにおける具体的な動き
・瀬戸つながり隊の一員としての取り組み～平成 27 年に発足した組織での活動～瀬戸地区社協や公民館、瀬戸町内の障害福祉サービス事業所で構成。
原則、月毎の定例会、第３回瀬戸つながり広場の開催、平成 30 年度人権教育研修会（瀬戸公民館と共催）、江西学区生徒と住民のふれあい祭り参加等。

４）各種研修会への参加　（※10 月以降）
・東部地域部会計画相談支援勉強会（毎月　第３木曜日）
・岡山市計画相談に関する勉強会（12 月・3 月）
・赤磐市相談支援事業所連絡会　（10 月・3 月）
・赤磐市くらす部会（12 月・2 月）
・高次脳機能障害のリハビリテーションと地域における支援（10 月）
・東部地域保健福祉連絡会（12 月）
・講演会「貧困を直視し続けた男たち」（2 月）
・「安心した子育て・孫育てができるヒント」（つながり隊共催研修会）（3 月）
・瀬戸つながり隊　連絡会（毎月）

５）相談利用者状況
福祉事務所別計画相談契約者数

（平成 31 年 3 月 31 日現在、総数 163 人～者 122 人、児 41 人）

市別	岡山市							赤磐市	賀陽町	備前市	瀬戸内市	和気町
区別	東区	瀬戸支所	中区	南区	北区	建部御津	健康づくり課					
者	32	17	21	3	5	3	9	27	1	3	1	0
児童	24	6	7	1	0	1	0	1	0	1	0	0

※今年度新規契約 25 人　　契約終了４人

相談形態別人数（同上、総数 204 人）

基本相談	障害児相談	計画相談	地域移行	地域定着
40	41	122	0	1

計画相談（児童含む）障害別の状況（同上）　※難病と高次脳については再掲

状況	身体	知的	精神	重心	身・知	身・精	知・精	発達	難病	高次脳
者	13	49	15	24	14	6	1	0	3	3
児童	1	10	0	1	4	0	0	25	0	0

基本相談の内容別人数（平成 31 年 3 月現在、継続中のもの）相談内容別人数⇒※再掲あり）

福祉サービスの利用（計画相談契約者除く）	就職相談、アフターケア等	基礎年金手続	成年後見	補装具日常生活用具等
14 人	2 人	6 人	1 人	2 人
各種手当の申請	手帳の取得等	退院後の生活相談	引きこもり等	生活相談他
3 人	1 人	5 人	2 人	20 人

計画及びモニタリングによる請求件数

内容＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	総数
モニタリング	13	10	7	23	17	13	6	9	9	14	9	6	136
計　画	7	8	12	7	11	8	14	13	14	9	11	20	134

６）瀬戸における相談支援業務の今後

この１年、計画相談件数に大きな変化はなかった。新規依頼は変わらずあり、可能な限りお受けしていったが、同時に契約の終了ケース（介護保険、他事業所、基本相談へのそれぞれ移行など）も見られたため、結果 20 名程度の増加となっている。

計画相談の業務と、認定調査、頻繁な訪問、会議が必要な基本相談や地域定着のケース、また年金申請などの手続き業務を並行して行っている現状の中では、どうしても緊急課題が優先されてしまうため、通常の業務が後回しになってしまい、利用者の方をお待たせしてしまう場面も少なくない。また時間内に処理できない記録類、解決が難しい課題の継続、夜間休日問わずの電話相談に対し、限られた支援員でいかに対応、解決を図っていくかが課題として残る一年であった。新年度からは赤磐市基幹相談支援業務への出向も予定されている。サービスへの繋ぎ、日常生活課題の解決等相談支援に期待を頂く当事者の方の地域生活を少しでも豊かなものへと気持ちを新たにして臨みたい。

平成 30 年度【ワークショップちどり】事業報告

平成 30 年度は 20 名でスタートした。永年、自主製品の紙作業に関わって来られた利用者の方が 3 月に一般就職が決まり契約を解除となった。契約数を増員し稼働率を上げることが課題として残った。働く事業所として就労を通しての達成感・工賃を得る喜びを感じて頂けるよう取り組んだ。今年度より新たな工賃向上計画に取り組み、平均工賃時給 200 円、月額 14,371 円となった。来年度も計画に沿う形で達成を目指したい。高齢により介護保険と併用される方への支援、健康面への配慮に努めた。更に今後もご利用者一人ひとりの人権を尊重し、穏やかな気持ちで過ごして頂けるよう寄り添いの支援に努めていきたい。また、新たに近隣の施設と合同避難訓練を行い、地域との繋がりも一歩前進した年であった。

1、定員及び利用者状況

・定員：20 名（変更なし）

・契約者数：19 名　　平均利用率　78%

2、職員配置

・管理者・サビ管 1 名（兼務）　目標工賃達成指導員 1 名　　生活支援員 3 名
職業指導員 1 名（パート）　　事務員 1 名（兼務）

3、作業及び活動の取組み

〈作業〉

・紙製品

新商品の開発に取り組み、積極的にバザーへ参加し売り上げに繋げた。商品価格の見直しは次年度への課題となった。岡山市社協・社会就労センター(セルプ協)より受注を頂き売り上げに繋がった。課題として、ご利用者の校正作業・お花付け作業の後継者が育っていない現状が続いている。

・下請け〈ドックフード等〉

新たな担当職員でのスタートとなったが職員間の協力の下、売上げを落とすことなく進めることができた。また、業者と月 1 度ミーティングを行い、作業の進捗状況・課題点を話し合い品質の高い商品生産を目指して進めてきた。作業場の整理整頓、包材場所の見える化を徹底したことにより、作業効率を上げ、前年よりさらに包材ロスも減り業者からの信頼に繋がってきている。また、その方に合った自助具を作成したことで、ご利用者の出来る作業の幅が広がっている。また優先調達法登録により定期的に岡山県・岡山市からの受注を頂き収入増となった。

・施設外就労

5 年目を迎え利用者の作業スピードが増し、出来る事が増えた事により生産量増に繋げた。また、自信に繋がり、やりがいを持ち生き生きと作業へ向かわれる姿が増えた。丁寧な作業・納期厳守で進めたことにより取引先との信頼関係も築けている。また、作業場についても、整理整頓し安全性に努め、季節に応じた健康管理にも配慮し進めた。

・委託販売

ネイチャーファームのお花を店頭で販売している事でお客様の集客に繋がっている。その流れで店内に入って頂く機会が増え、店内で販売しているひだすきの備前焼も見易いようディスプレイしたことにより売上げが伸びた。バザーでは、乾燥こんにゃくの売上げも順調であった

各作業の平成 30 年度収入状況について以下の通り（%は予算対比）

・紙製品作業	（収入 1,078,818 円）	98%	
・ドックフード	（収入 1,181,179 円）	98%	
・施設外就労	（収入 1,474,042 円）	105%	
・委 託 販 売	（収入　790,435 円）	113%	
・そ　の　他	（収入　53,497 円）	54%	合計 4,577,971 円

利用者工賃：平均工賃支給額　時間給：200 円　月平均額：14,371 円
（総支給額 3,233,535 円）
工賃向上計画 30 年度目標は平均月額 14,655 円：時間給 200 円
月額は 284 円減、時間給は目標を達成した。

〈活動〉

・第 3 土曜日の開所日は、担当者を中心にご利用者の意見を聞き、季節に合った行き先・ご利用者が多く参加出来る内容を検討し、社会体験の学びの行事となるよう実施した。10 月の泊を伴う社会体験では、利用者ミーティングを活用し、ご利用者主体で行き先・プランを検討し実施した。リビング配布作業、月 1 度の地域清掃時などに地域の方から声を掛けてくださることが増え定着して来た。また、昨年、地域の高齢者施設からクリスマス会に招待して頂いたことをきっかけに、今年度は水害避難訓練も合同でさせて頂き、地域交流が一歩前進できた年であった。

4、苦情解決

〈ヒヤリハット〉　・怪我（1 件）　その他（3 件）
〈事　　故〉　・事故（0 件）

5、今後の課題

・更なる工賃アップを目指したいと考えている。
・平均利用率が 8 割弱である為、契約者数の増員が図れるよう積極的に見学者の受け入れを実施し、支援学校と連携を図りたいと考える。
・地域活動を更に活発に行い、地域に密着した事業所作りに取り組んでいきたい。